

本簡単ガイドにより、ソフトウェアに付帯している「冷やしうどん」の絵を使って、Real Match Assistant (以下、RMA) の操作方法を習得し、その効果を体験してください。

★手順

A) 事前準備(インストール)が完了すると、デスクトップに「ユーティリティフォルダ」が生成されます。



B) このフォルダ内にある色合わせ動作確認用チャートフォルダの中に、色見本出力用データ「色合わせ動作確認\_色見本原稿出力.pdf」と原稿データ「色合わせ動作確認\_原稿データ.pdf」の2つの「pdf」ファイルが入っています。



C) これらを使い、以下に示す3つの印刷物を作成します。

Step1: 色見本の作成: 対象PODで「色合わせ動作確認\_色見本原稿出力.pdf」をJapanColor2011で出力します。

Step2: 比較印刷物の作成: RMAの効果をわかりやすくするため、対象PODで原稿データをデフォルト条件 (例えば、JapanColor2011) で出力します。

Step3: RMA処理印刷物の作成: 色見本をスキャンしたデータと原稿データ (CMYK) の2つの情報に基づき、色見本プロファイルを作成。対象PODで原稿データをこの色見本プロファイルに基づいたデバイスリンクプロファイルで処理し出力します。

<RMAの効果確認方法>

色見本とRMA処理サンプル間の色の違いと、色見本とデフォルト条件 (Ex. JapanColor2011) による比較印刷物間の色の違いを比較してください。RMA処理印刷物の方が色見本に近いことが確認できると思います。このような状態になっていれば、RMAは正常に動作していることとなります。デフォルト条件による比較印刷物が色見本に対し暗い再現なのに対し、RMA処理印刷物は色見本に近い再現が得られています。

Step1 色見本の作成



Step3 RMA処理印刷物の作成



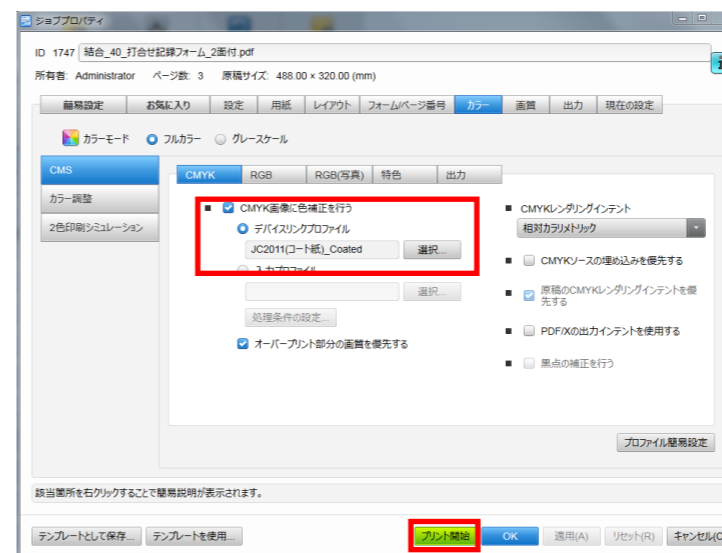
Step2 デフォルト条件による比較印刷物の作成



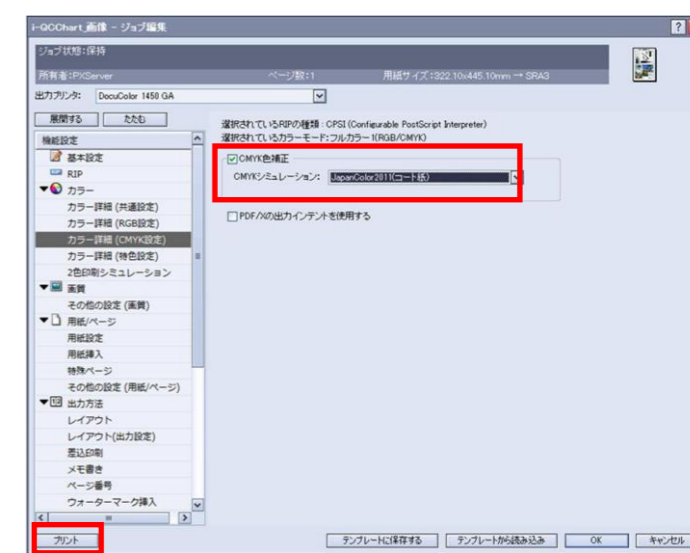
★ 3つの印刷物の作成

Step1&2: 色見本及びデフォルト条件による印刷物の作成

Print Serverプロファイル設定画面で、Japan Color2011プロファイルを設定し、出力してください。



GX-Serverの場合



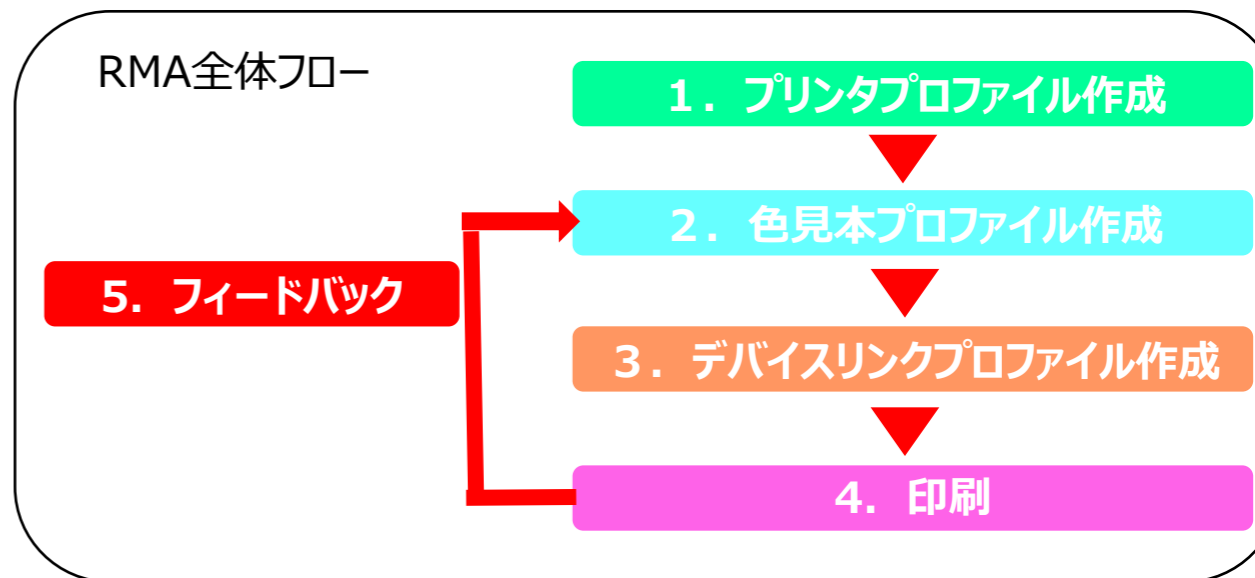
PX-Serverの場合

Step3: RMA処理印刷物の作成

RMAをインストールすると、作業用フォルダとして「C:\ユーザー名 (ユーザー名) \RMA\_WORK」の下に、以下の5つのフォルダが生成されます。

フォルダ名	フォルダの用途
「スキャンデータ」	ScanUtilityでスキャンしたRGBデータの出力場所。
「プリンタプロファイル」	プリンタプロファイルの出力場所。
「プロジェクト」	プロジェクトファイルの保存場所。 不要なプロジェクトはその都度削除してください。
「原稿データ」	原稿データの格納場所。 作業を開始する前に、原稿データを格納しておいてください
「色見本プロファイル」	色見本プロファイルの出力場所。

RMA全体フロー

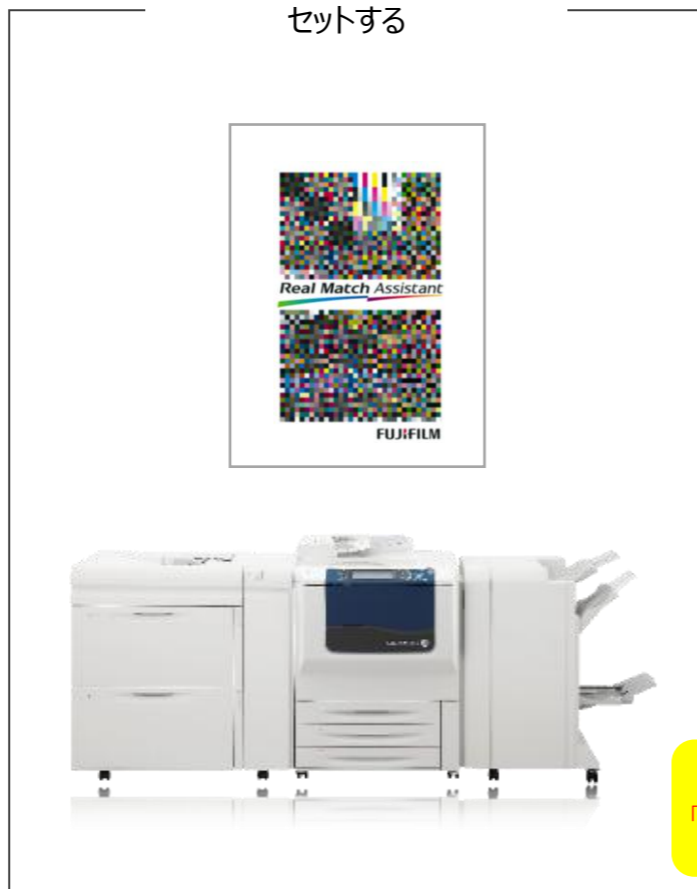


【RMA操作手順】 Step3 対象POD : DocuColor 1450 GAの場合

1. プリントプロファイルの作成 (マット紙/コート紙/上質紙の3種のプリントプロファイルを作成可。RMA導入時、紙・色材ロット変更時、色合わせ精度不良時に実施。)

1. Print Serverでカラー設定の  
②・③☑を外しチャートを出力

2. 出力したチャートをスキャナに  
セットする



3. ①「新しいプロジェクト」②プロジェクト名を入力  
③「参照」④「プリントプロファイル作成」を選択し  
⑤「作成」⑥データをドラッグ&ドロップ

4. ①「ScanUtility」を起動  
設定を②確認し ③「プレスキャン」

5. ①「スキャン」②「RMA\_WORK」「スキャンデータ」  
③ファイル名を入力し ④「保存」

6. ①「スキャン」②「OK」  
③保存したデータを選択し「開く」

7. ①「プリントプロファイル作成」  
②\*「更新」

8. 「RMA\_WORK」  
①「プリントプロファイル」フォルダを選択し ②「OK」  
③「保存」④「OK」

【RMA操作手順】 Step3 対象POD : DocuColor 1450 GAの場合

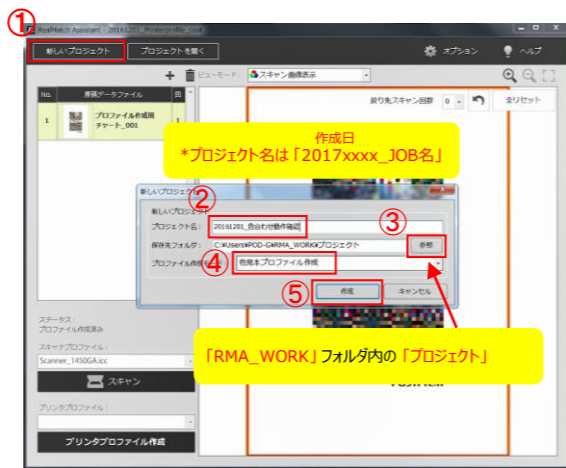
2. 色見本プロファイルの作成 (端物だけでなく、ページ物、A3超サイズも対応可。詳細はマニュアル操作編を参照。)

1. 色見本を  
スキャナにセット



【注意事項】  
※色見本と原稿データの絵柄は一致していることが必要。  
※色見本は原稿データを等倍で出力したものを使用。

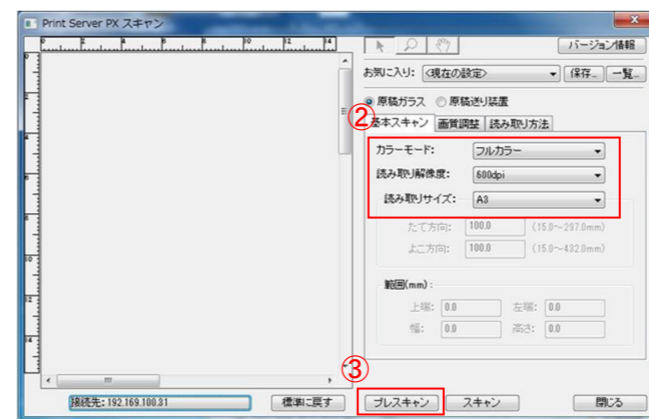
2. ①「新しいプロジェクト」②プロジェクト名を入力  
③「参照」④「色見本プロファイル作成」を選択し  
⑤「作成」⑥データをドラッグ&ドロップ



デスクトップ上の「ユーティリティ」  
「色合わせ動作確認用チャート」フォルダ内の  
「色合わせ動作確認\_原稿データ.pdf」  
原稿データは予め「RMA\_WORK」  
「原稿データ」フォルダ内に入れておく。

「RMA」UI画面

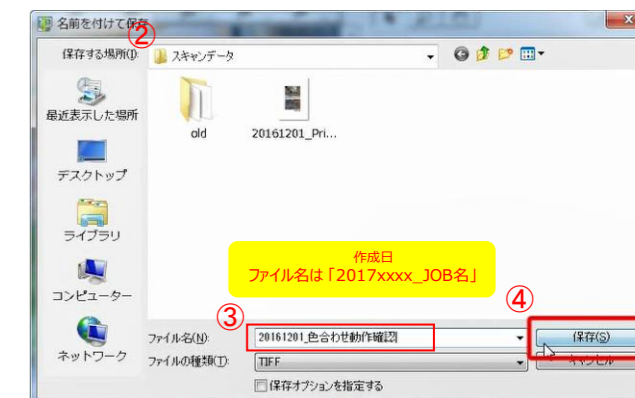
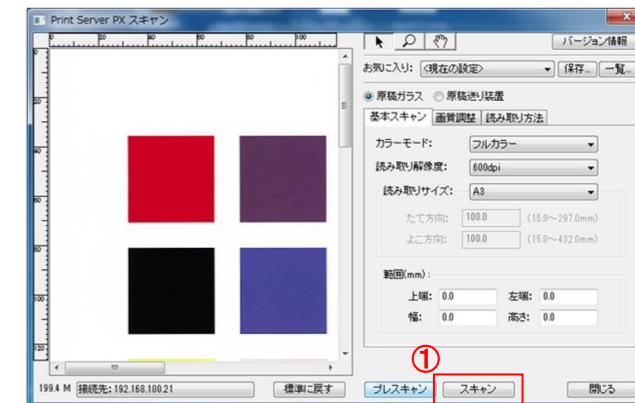
3. ①「ScanUtility」を起動  
②設定を確認し③「プレスキャン」



プレスキャンは2〜3分かかります

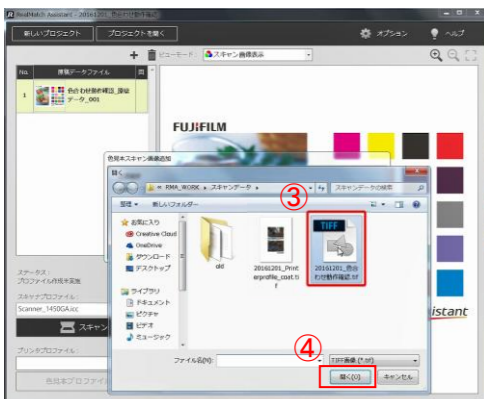
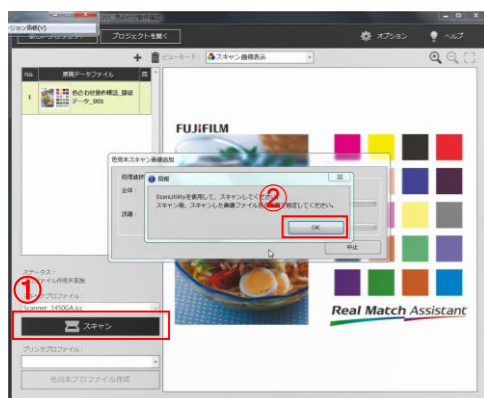
「ScanUtility」UI画面

4. ①「スキャン」②「RMA\_WORK」「スキャンデータ」  
③ファイル名を入力し④「保存」



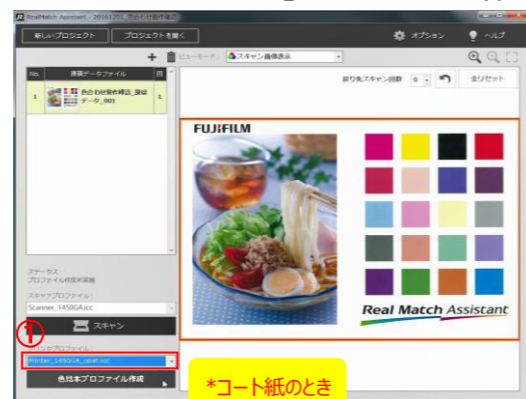
「ScanUtility」UI画面

5. ①「スキャン」②「OK」で  
保存した③データを④「開く」

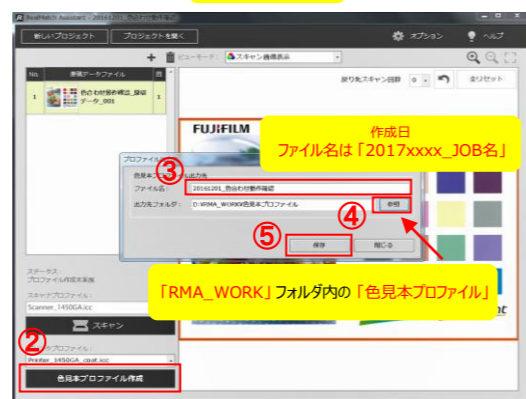


\*「RMA」UI画面

6. ①\*「Printer\_1450GA\_coat.icc」を選択  
②「色見本プロファイル作成」③ファイル名を入力  
出力先フォルダを「参照」から指定し⑤「保存」

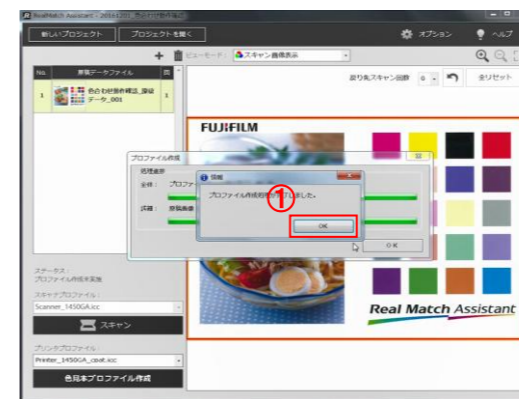


\*コート紙のとき



\*「RMA」UI画面

8. ①「OK」終了

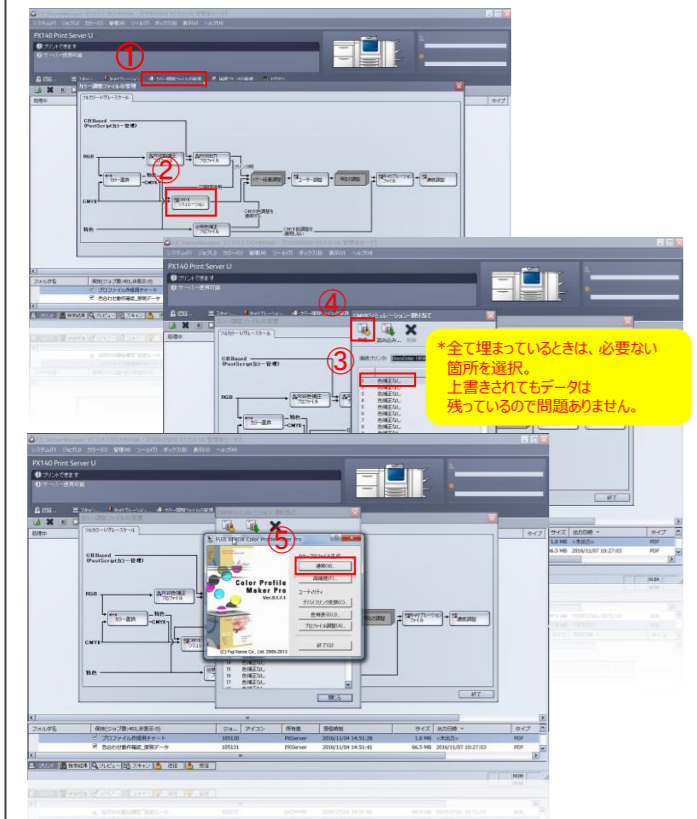


\*「RMA」UI画面

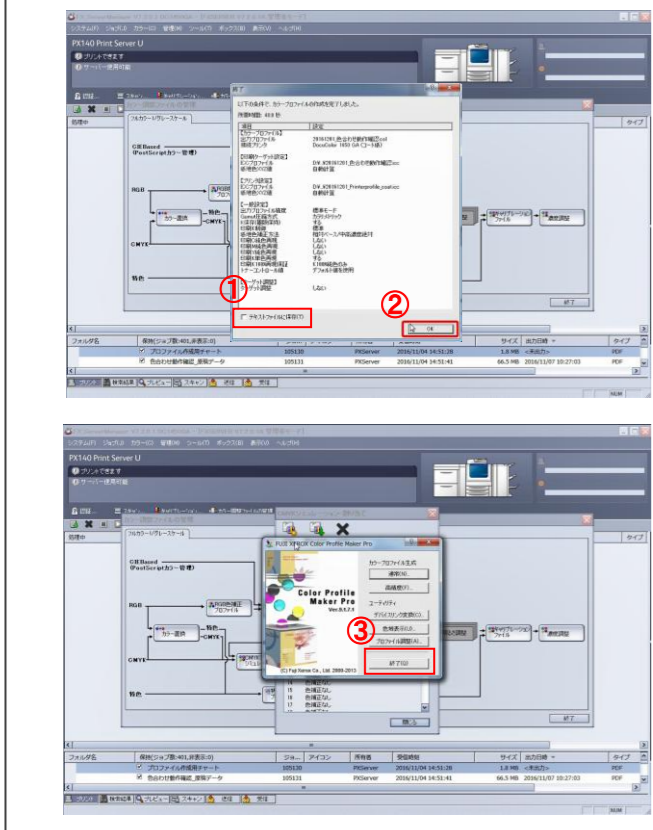
【RMA操作手順】 Step3

3-1. デバイスリンクプロフィール (PX-Server 編)

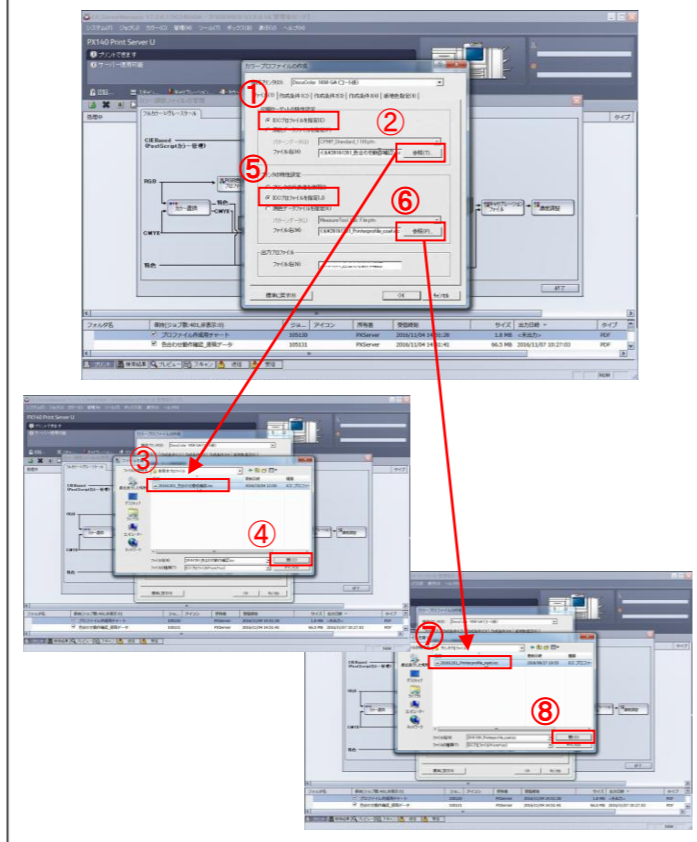
1. ①「カラー調整ファイルの管理」 ②「CMYKシミュレーション」  
③「色補正なし」を選択し ④「作成」  
⑤「通常」



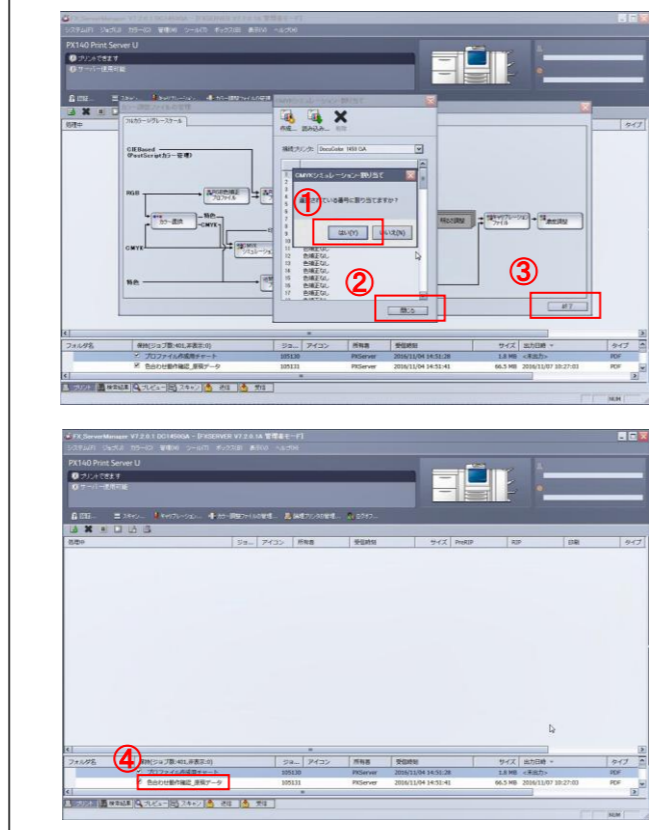
5. ①「テキストファイルに保存」のチェックをとり ②「OK」  
③「終了」



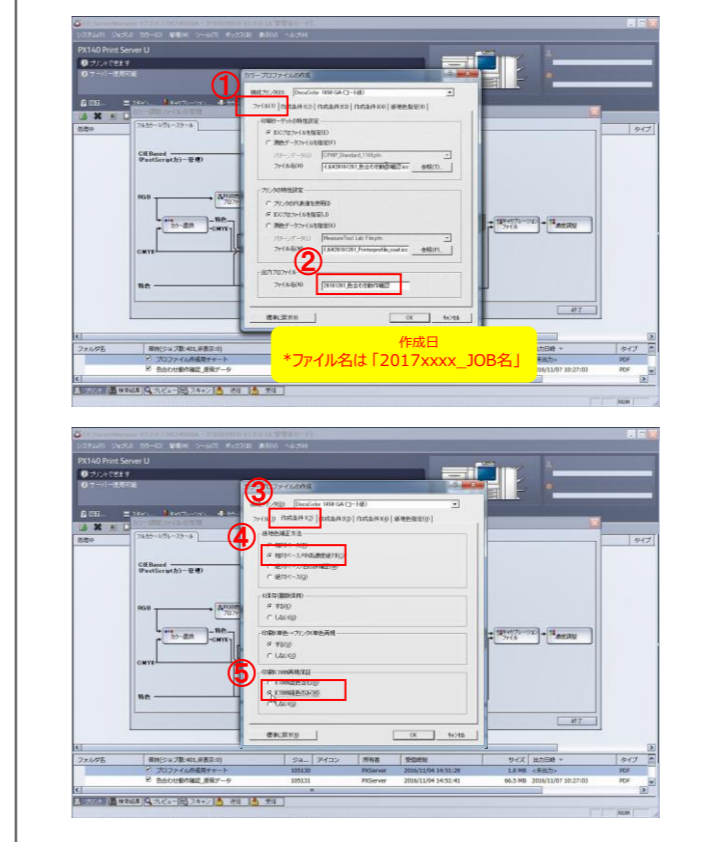
2. ①「ICCプロフィールを指定」にチェックを入れ ②「参照」  
作成した③色見本プロフィールを④開く  
⑤「ICCプロフィールを指定」を選択し ⑥「参照」  
作成した⑦プリンタプロフィールを⑧開く



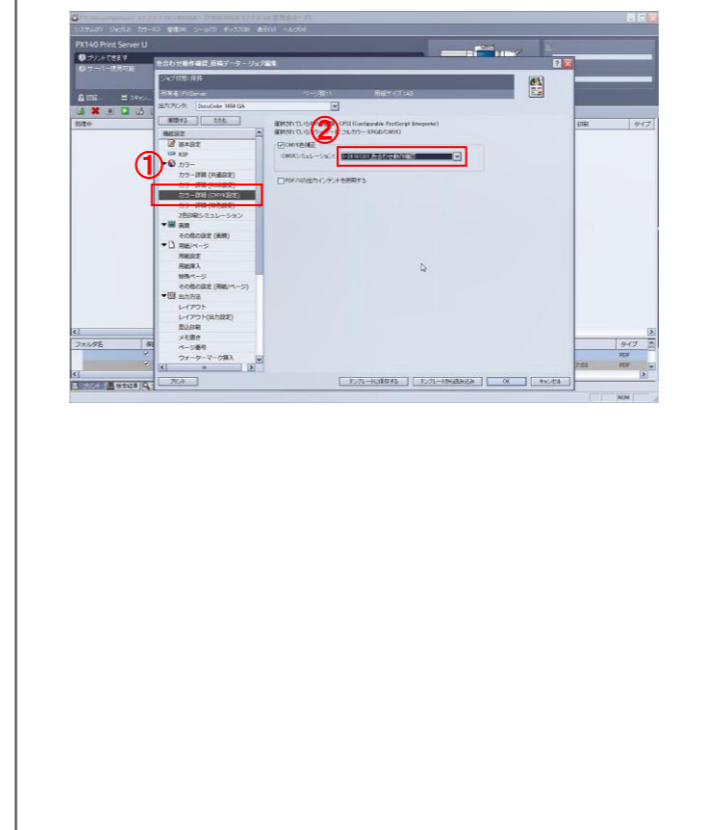
6. ①「はい」 ②「閉じる」 ③「終了」  
④「原稿データ」をダブルクリック



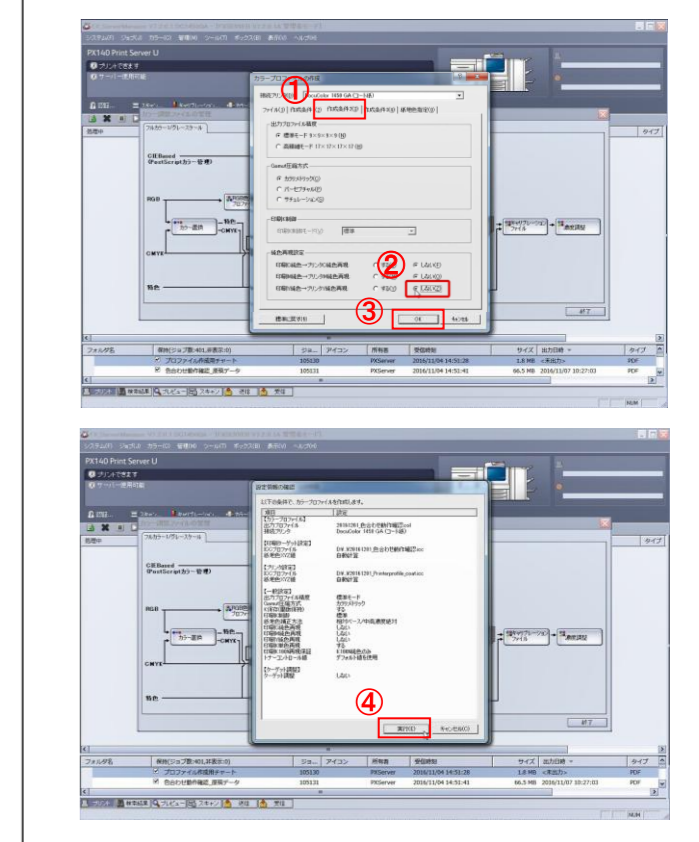
3. ①「ファイル」タブの ②「ファイル名」を入力  
③「作成条件1」タブの ④「相対ベース/中高濃度絶対」  
⑤「K100%純色のみ」を選択



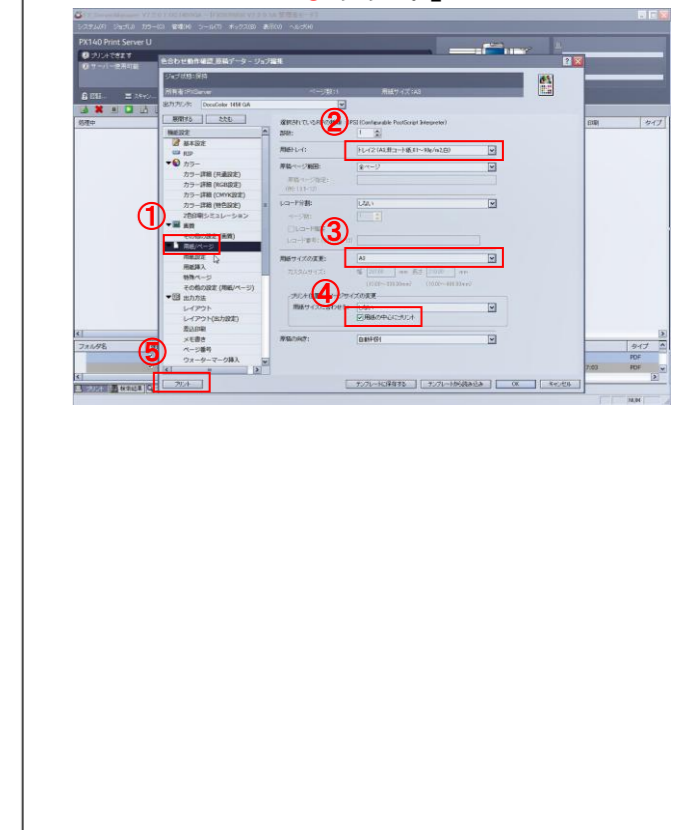
7. ①「カラー詳細(CMYK設定)」  
作成した②デバイスリンクプロフィールを選択



4. ①「作成条件2」タブ  
②「しない」 ③「OK」 ④「実行」



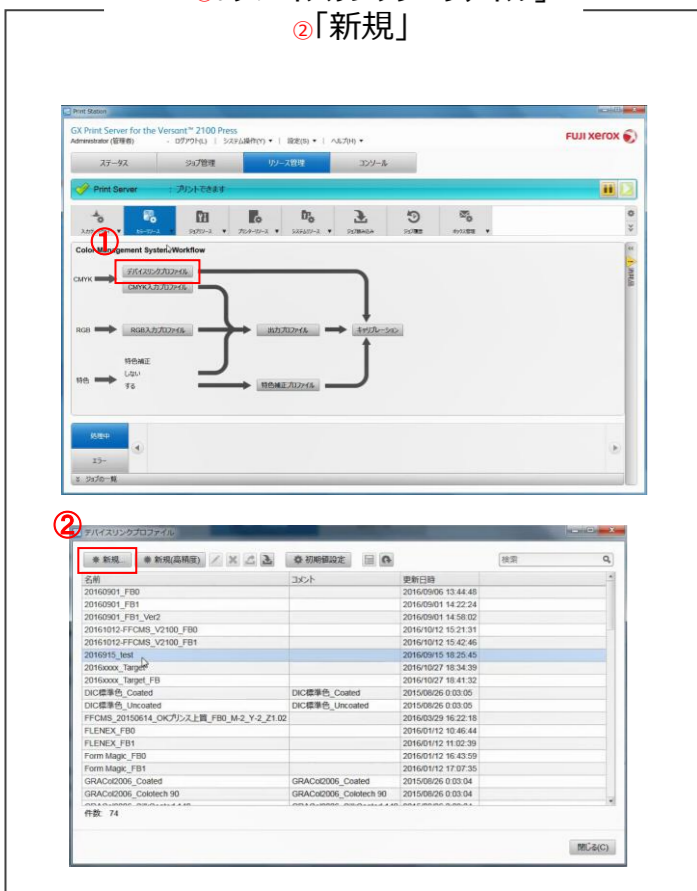
8. ①「用紙/ページ」で ②・③「A3」選択  
④「用紙の中心にプリント」にチェックを入れ  
⑤「プリント」



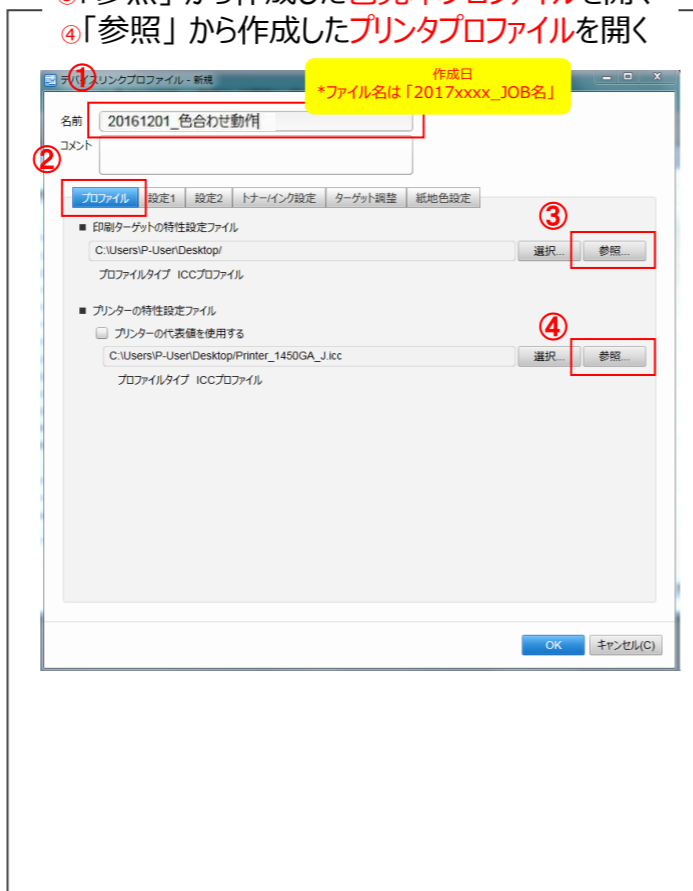
【RMA操作手順】 Step3

3-2. デバイスリンクプロフィール（GX-Server Ver.1.6編）

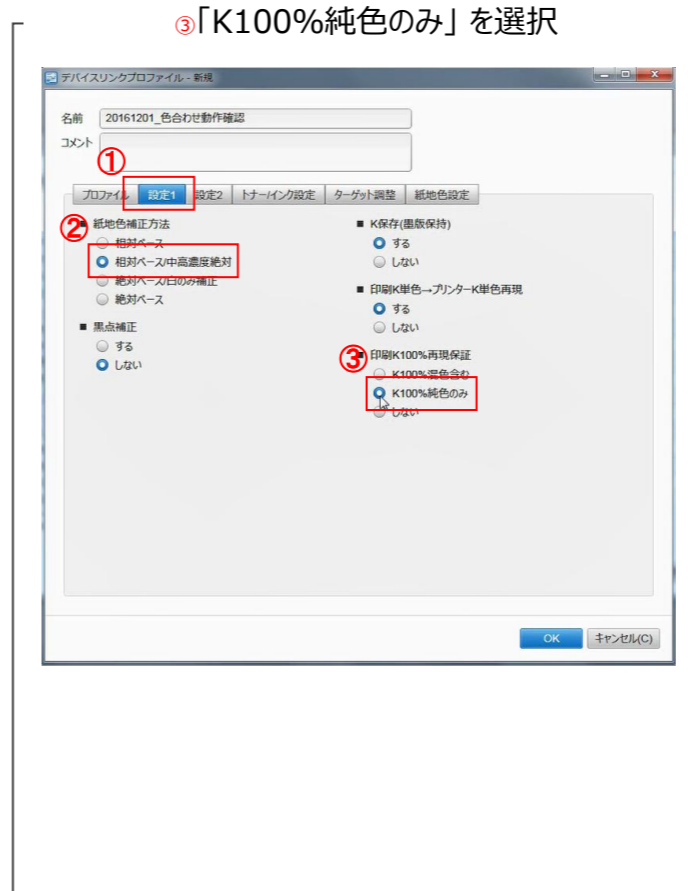
1. ①「デバイスリンクプロフィール」  
②「新規」



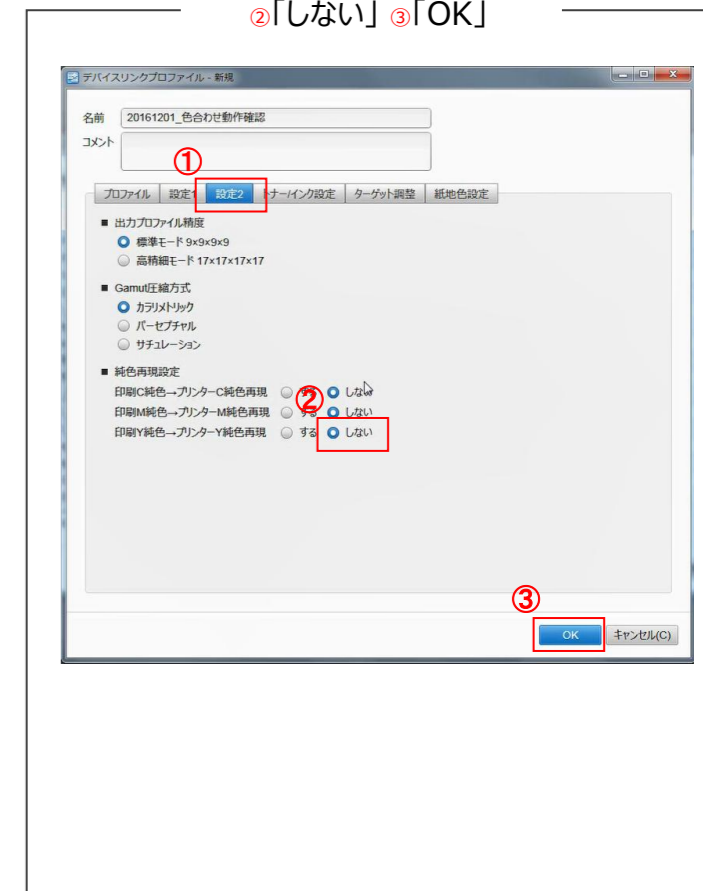
2. ①「名前」を入力 ②「プロフィール」タブの  
③「参照」から作成した色見本プロフィールを開く  
④「参照」から作成したプリンタプロフィールを開く



3. ①「設定1」タブの  
②「相対ベース/中高濃度絶対」と  
③「K100%純色のみ」を選択



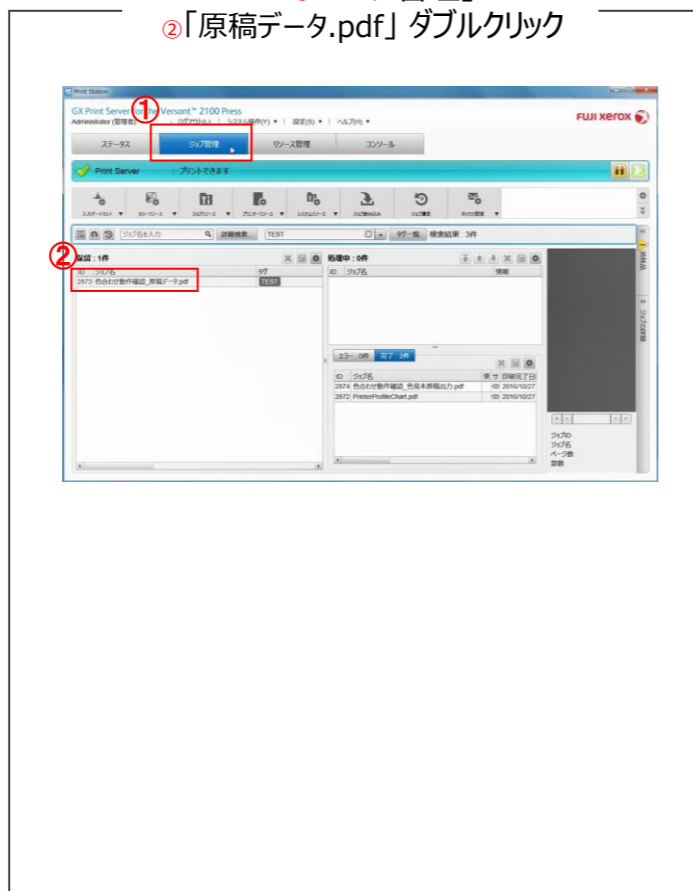
4. ①「設定2」タブの  
②「しない」 ③「OK」



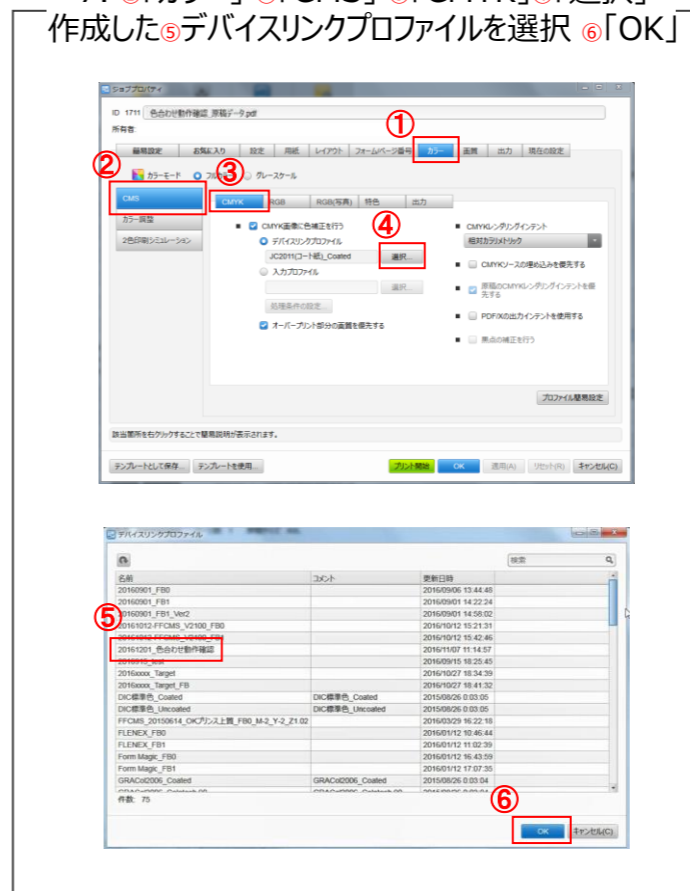
5. ①「実行」



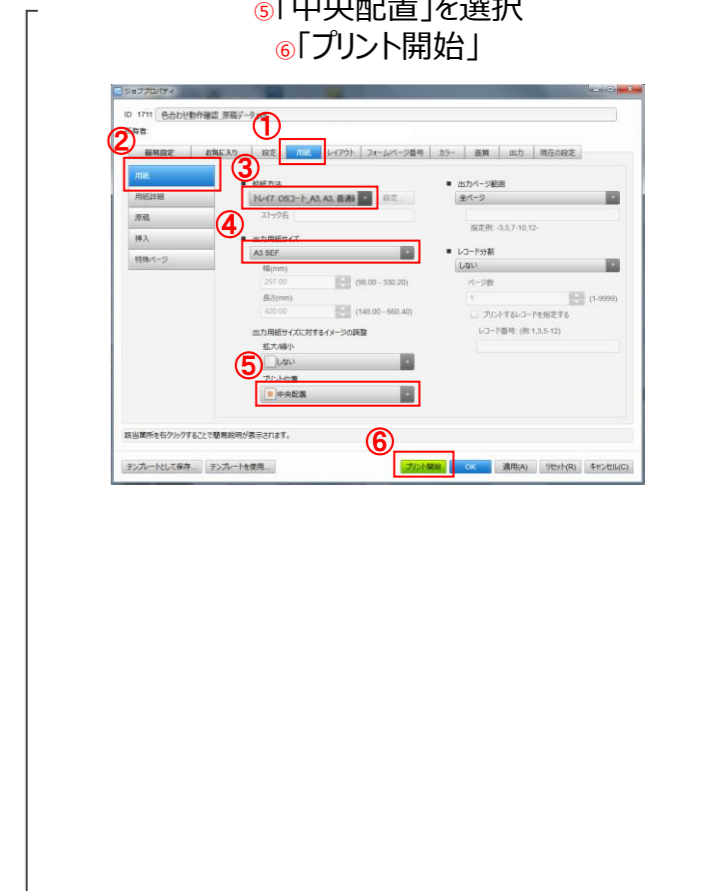
6. ①「ジョブ管理」  
②「原稿データ.pdf」ダブルクリック



7. ①「カラー」 ②「CMS」 ③「CMYK」 ④「選択」  
作成した⑤デバイスリンクプロフィールを選択 ⑥「OK」



8. ①「用紙」 ②「用紙」 ③④「A3」を選択  
⑤「中央配置」を選択  
⑥「プリント開始」



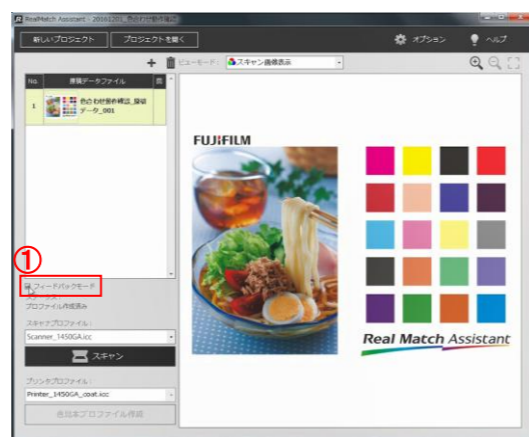
【RMA操作手順】 Step3 対象POD : DocuColor 1450 GAの場合

4. フィードバック (1回目の色合わせ結果が不十分な場合に使用してください。)

1. 色を合わせた印刷物を  
スキャナにセット



2. ①「フィードバックモード」にチェックを  
入れ ②「ScanUtility」を起動

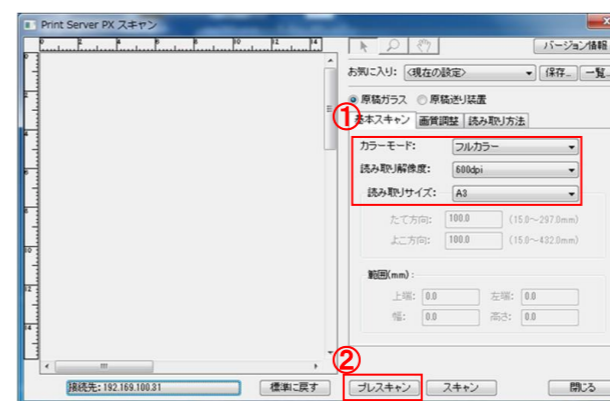


PX-Serverのとき

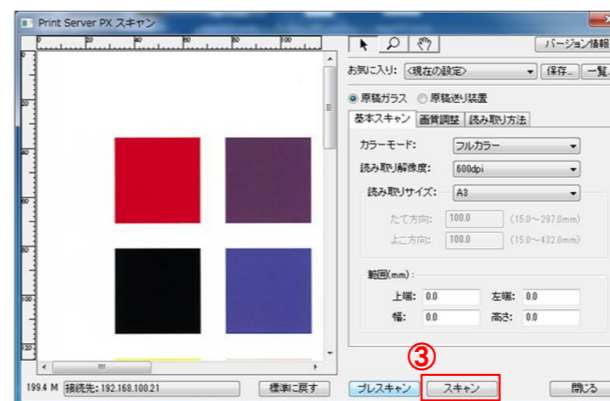


GX-Serverのとき

3. ①設定を確認し ②「プレスキャン」  
③「スキャン」

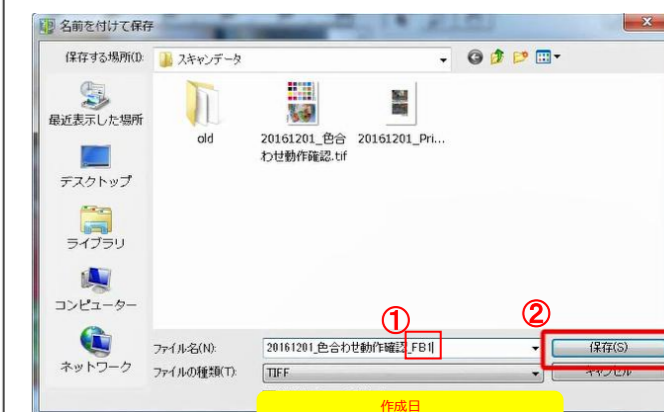


\*プレスキャンは2~3分かかります



\*「ScanUtility」UI画面

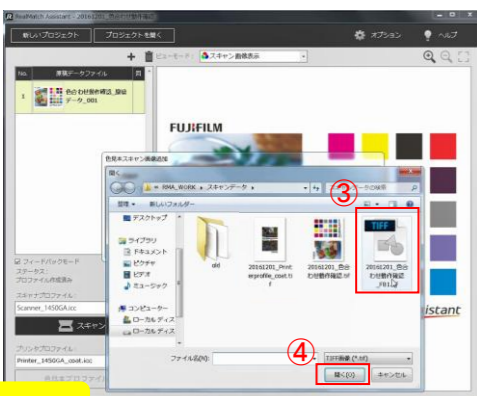
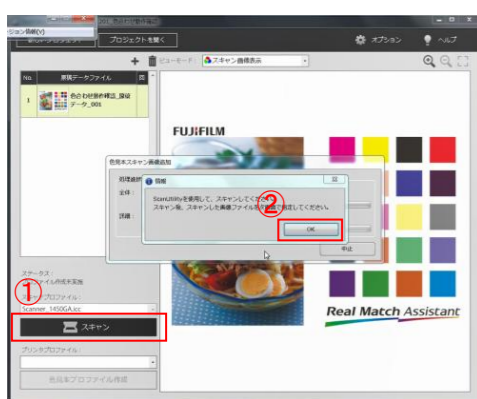
4. ファイル名に ①「FB1」 追記し  
②「保存」



\*ファイル名は「2017xxxx\_JOB名\_FB1」

\*「ScanUtility」UI画面

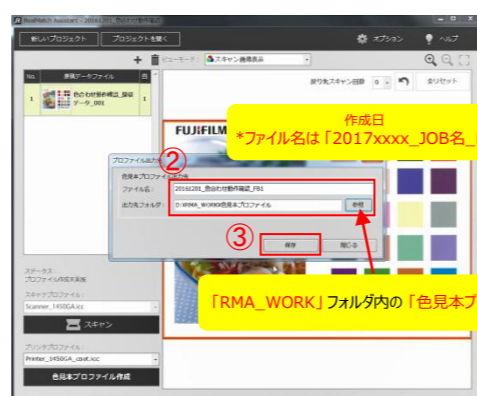
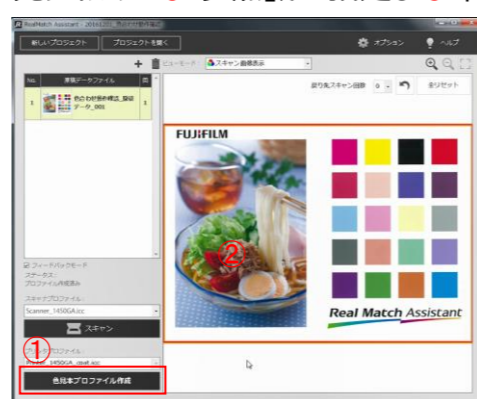
5. ①「スキャン」 ②「OK」  
保存した ③「FB1」を④開く



\*コート紙のとき

\*「RMA」UI画面

6. ①「色見本プロファイル作成」  
ファイル名に ②「FB1」を  
出力先フォルダを②「参照」から指定し ③「保存」

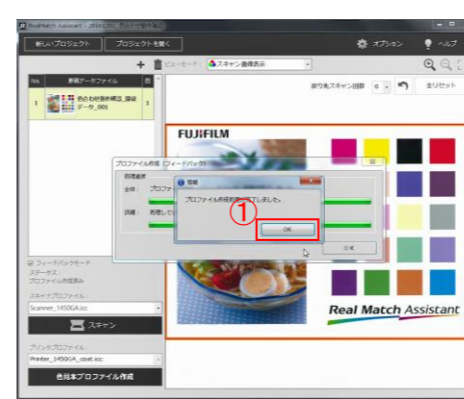


作成日  
\*ファイル名は「2017xxxx\_JOB名\_FB1」

「RMA\_WORK」フォルダ内の「色見本プロファイル」

\*「RMA」UI画面

7. ①「OK」

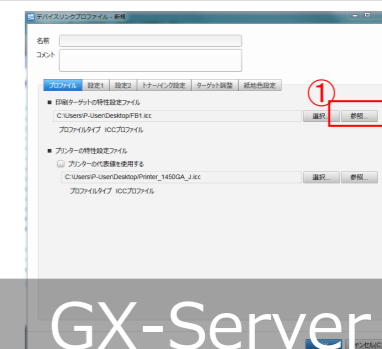


\*「RMA」UI画面

8. 「PX-Server」または「GX-Server」でデバイ  
スリンクプロファイルを作成し出力(3-1,3-2参照)



PX-Server



GX-Server